

若林栄四の四半期レポート

若林栄四 (2012/01/12)

為替相場

1. ドル/円

2012年2月74円と申し上げて来たがいよいよ日柄が近付いてきた。

10月31日の安値75円53銭でほぼ74円を達成しているのでは良いのではないかという見方もあるが、日柄もしくは値頃のどちらかが完全に達成しているわけではなく、この相場に達成感はない。

昨年4月6日の高値85円53銭からの43週目に当たる2月第1週辺りにその高値からの週足カウンター72度線メジャーが73円台に位置する形になっているのがどうしても気になる。

85円53銭からの一相場11円80銭は73円73銭である。

10月31日の介入高値79円55銭からの5円90銭（ペンタゴンの高さ）は73円65銭である。

ということで73円台がほしい相場である。

もし予想通り2月初めに73円台で底打ちすると、昨年4月6日の85円53銭の高値からの週足カウンター72度線が6月中旬までに相場を85円台まで持ってくる可能性が高い。

2月第1週に底打ちならば、19週程度は一気に相場を持っていくほどのエネルギーはたまっているものと考えられる。

2012年2月は1998年8月の高値147円64銭からの162ヶ月目の節目のタイミングであり、ここでドルが底を付けると、その後大幅なドル上昇の起点になるものと考えている。

2月に底打ちとみているが、360円からの円高の終わりと考えているので、72円台にオーバーランすることは十分考えられる。

LongTerm Japanese yen-Monthly 12/30/2011



2. ユーロ/ドル

この相場の2011年末相場は1.2960であった。

年足チャートで1971年の安値0.5365（ドイツマルクをユーロ換算した値）を起点にすると、9年ぶりに38.2%チャネルのボトム（昨年末は1.34）を下に切った。

ということはこの 72 度ラインが年足のレジスタンスということになる。それは 1.37 に位置している。

したがって相場は戻っても 1.37 ということになる。(もちろん年足なので 300-500 ポイントのオーバーランはある)

一方下のサポートは年足で今年は 1.07、来年は 1.10 ということになる。

月足でみると 1.1876 の安値からの 19 ヶ月目の節目のタイミングがこの 1 月である。したがって一旦このユーロ下げが収まる可能性が高い。

そこでその 1.1876 からの月足の 72 度サポート(38.2%チャンネル)を見ると 1.28 辺りに位置している。

2000 年 10 月の底値 0.8228 からの月足カウンター 36 度線メジャーサポートは 1.29 である。

ということで、一旦 1.26 台まで突っ込んだ相場はやりすぎだった可能性が高い。

しかし 1.1876 の安値からの月足カウンター 36 度サポートを 1.33 で下に切っており、相場は戻っても 1.33-35 辺りが限界となろう。1.35 には天井 1.6040 からの月足黄金分割三角形の 18 度線レジスタンスが位置しておりこれを抜くのは難しいだろう。

なお月足のサポートとしては 2000 年 10 月の安値 0.8228 からの月足 18 度線が 1.25 に位置しており、これは強力なセカンダリーサポートである。

目先は買いが正解と思われるが、大きなトレンドが下げなのでしっかり利食いを入れながらの操作としたい。



3. ユーロ/円

12 月末相場は 99 円 69 銭であった。

年足でみると 1979 年の高値 285 円 56 銭からの相場下限は 94 円 (年足) となっている。

年足で今年 95-6 円が大きなサポートに見える。

2011 年の年足カウンター 72 度サポートは 98-9 円であったが、今年これが 105 円辺りまで上昇してくるので基本押し目は買いということになりそうだ。

169 円 99 銭の天井からの月足カウンター 72 度サポートはこの 3 月で 90 円辺りにある、この 90 円のレベルは 2000 年 10 月の安値 88 円 93 銭からの月足カウンター 36 度線メジャーが位置しているところでもあり、強力なサポートとなりそうだ。

2010 年 8 月 24 日の安値 105 円 44 銭からの 19 ヶ月目は今年 3 月となるので、3 月に向けて 90 円をテストする動きとなるのではないかとみている。

もう少し目先でみると、昨年 4 月 11 日の高値 123 円 35 銭からの節目である 99 円 75 銭を下に切ったので、10 月 31 日の戻り高値 111 円 62 銭を基準に相場を見る必要があるようだ。

その 111 円 62 銭の高値からの週足下げ 18 度チャンネルの第 2 ティアーの最下限 98 円 60 銭を先週末で下に抜けている。もっとも誤差の範囲内でもあるが。

下に抜けたとすると第 3 ティアーの下限 90 円台というのが目標になり、月足のターゲット 90 円と符合する形になる。

年足のカウンター 72 度線を信用するならば 2015 年にはこの相場は 120 円超えである。今年の安値は絶好の買いの機会である。

EUR/YEN-Monthly 12/30/2011



4. 豪ドル/円

この相場の年足の起点は 1974 年 1 月の 451 円 93 銭である。

その高値からの下げ 36 度チャンネルの下限 82-3 円、と同じポイントからのカウンター 72 度線が 80 円で今年に交差する形になっている。

したがって可能性としてはこの 72 度カウンターラインに今年初めてエンゲージする形での相場上昇が考えられる。

ということは 80 円以下の相場は全部買いで大丈夫ということでもある。

1974 年 1 月の高値からの 40 年半の日柄が 2014 年 7 月となるのでその辺りまでこの相場が強含むことが当然考えられる、2000 年 10 月の安値 55 円 52 銭からの 162 ヶ月は 2014 年 4 月となる。いずれにせよ 2014 年前半までは相場が強いと考えてよいだろう。

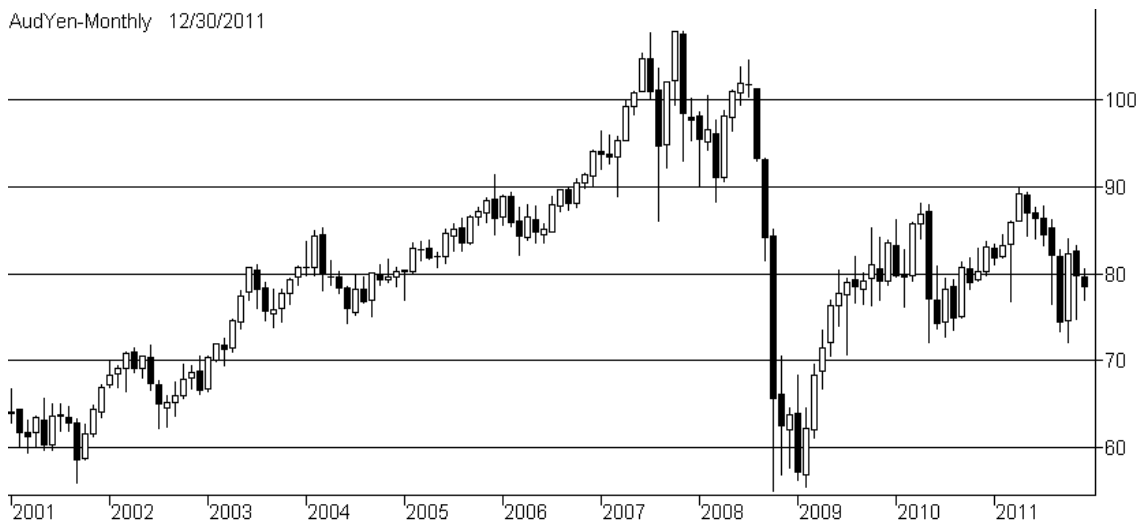
2014 年でみると上記 72 度カウンターラインは 115-120 円に位置する形になり、相場も大幅上昇ということになりそうだ。

目先は月足でみると 2008 年 10 月の底値 55 円 11 銭からの月足 72 度チャンネルでみると 12 月末の相場 78 円 47 銭は月足 72 度マイナーサポート 80 円を下に切っている。

もう一段下位の 72 度線は 1 月 73 円、2 月 76 円となっておりサポートであろう。

最終的にはもう一段下位の 72 度チャンネル最下限 (もっとも強いサポート) が 5 月 69 円、12 月 92 円という形でエンゲージしてくるので、基本的には買いで攻めたい。

AudYen-Monthly 12/30/2011



5. NZ ドル/円

2007年7月の高値97円78銭からの月足でみると、59ヶ月目の今年5月辺りから本格的に相場が立ち直る形のように見える。

97円78銭の高値からの月足下げ18度チャネルのカウンター18度線に当たりに行くように見えており、5月月足で57円、それ以前に底打ちする場合は56円月足サポートのように見える。

97円78銭からの月足下げ72度チャネルでみると62ヶ月目の今年9月まで、72度線が降りてきており、最終的には50円をターゲットとするもののようにも見える。

一方で2009年2月の安値44円25銭からの月足上げ72度チャネルの61.8%チャネル下限は12月59円50銭辺りにあり、12月末相場59円77銭はこのサポートをキープしている。このラインをキープすると相場は2月末62円50銭まで見た後、カウンター72度線との勝負となる形にも見える。

その後5月57円というシナリオも十分ありうる。

紆余曲折はあっても来年3月に向けて62円50銭まで月足カウンター72度サポートが上昇してくるので、押し目は買いで対処したい。

NZDJPY-Monthly 12/30/2011



6. 英ポンド/円

1971年8月の高値865円からのこの相場の年足を見ると、下げ36度チャンネルの下限が、昨年120円近辺に位置している。2011年末は119円60銭で引けている。

2012年は110円近辺が36度チャンネルの下限である。年足から見る限りあまり下値の余地はなさそうだ。

月足でみると2007年7月の高値251円13銭からのペンタゴン1回転にさらに二つ目のペンタゴンの61.8%サポートの113円が強いサポートに見える。

このレベルは月足のカウンター72度サポートが4月113円でエンゲージし始める形になっており、強いサポートである。

この相場はやはり高値から40年半のタイミングが来ており、基本的にはこれ以上あまり大きく下がることはないだろう。

2007年7月の高値251円13銭からの50ヶ月目の昨年9月に116円85銭で安値を付けそれ以後安値更新していないことから、この相場はすでに底を見て、上昇の日柄待ちの状態にあるということもできる。

9月22日の116円85銭からの19週目は2月第1週となっていることから、このあたりから相場が立ち直る形になりそうだ。

STGYEN(daily)-Monthly 12/30/2011



7. ZAR/円(南アフリカランド/円)

2008年10月24日の安値7円75銭からの月足18度サポートは9円丁度レベルにある。

昨年9月22日に安値8円97銭を付けたが、月足ベースでの安値は9円50銭以上をキープしている。この9円50銭のレベルは2008年の底値7円75銭からの月足カウンター36度メジャーサポートであり、これをキープしている限り次の上昇への足がかりがあるということになる。

7円75銭の安値からの月足72度チャンネルでみるとマイナー72度サポートが今月は9円60銭辺りにあり、9円80銭にはカウンター72度レジスタンスが控えている形である。

相場の形としては7円75銭の底値からの18度線をキープして18度チャンネルを守り、18度チャンネルの上限13円を中期的に目指す形になっているように見受けられる。

9月22日の安値8円97銭からの19週目が2月第1週となっており、このタイミングから相場が出直してくるのではないかとみる。

押し目買い。

Zar/Yen monthly 12/30/2011



株式相場

8. 日経 225

この相場の年足を見るとまず起点として大事なのは 1965 年の安値 1,020 円と思われる。その 1,020 円の安値の 38.2 倍 (61.8 の逆数) が 38,964 円で、バブル天井 38,957 円を規定したとみるからである。

その 1,020 円を起点にペンタゴンを置くと、今年は 8,000 円で初めて上げ 72 度チャンネルにエンゲージする可能性が出てくる。別の言い方をすれば 8,000 円が強力な年足サポートである。1,020 円の起点からの 36 度線が 9,300 円にあったがこれは昨年末足で下に切れている。

以上から見ると下値 8,000 円上値 9,400 円というのが年足のレンジということになるが、上値のレジスタンスは年足カウンター 36 度メジャーの 10,500-700 円とみるのが正解だろう。

月足でみると、大底 6,994 円からの月足上げ 72 度チャンネルが 4 月 8,100 円辺りからエンゲージし始め、毎月 300 円の割合で上昇する形になることから、2012 年末には 10,600 円辺りまで 72 度線が上昇相場を支える形になるだろう。

目先は 11 月の安値 8,135 円を切る場面があるかもしれないが、2007 年 2 月の 18,300 円の高値からの 59 ヶ月目である 1 月は変化の月でもあるので、今月あるいは来月から相場はつきり上昇に転じることとなりそうだ。

7,800 円ぐらいまでの押しは覚悟して、年足サポート 8,000 円を信じて、押し目買いするしかないだろう。

NIKKEI225-Monthly 12/30/2011



9. 米国株

○ DJIA (ダウジョーンズ工業平均株価 30 種)

NY ダウの 2011 年末相場は 12,217 ドル。

1932 年の底値 40 ドルを起点にして年足を引くと上げ 72 度チャネルを下に切れており、昨年の 72 度線の位置は 12,900 ドル辺りにあり、5 月 2 日の高値 12,876 ドルはまさにそれをテストしに行った動きであった。

10 月 4 日の安値 10,404 ドルは 40 ドルの大底からの年足 36 度チャネルの上限 10,300 ドルをみにいった動きである。

年足では今年は 13,100 ドル辺りが強力なレジスタンスとなりそうだ。

月足でみると 10 月 4 日の安値 10,404 ドルは 4 年サイクルの中の 2 番目のサブサイクルのボトムであった。今は 3 番目のサブサイクル (最後のサブサイクル) に入っている形である。必ずしも 2 番目のサブサイクルの高値 12,876 ドルを抜かなければならないということではないが、抜けるケースのほうが多い。この場合高値がどこまで行くかは別として、高値を見た後の押しは 4 年の中で一番深いというのが常識である。

12 月末の相場で月足の大底 6,469 ドルからのカウンター 54 度線が 4 度目で初めて上に抜けた形になっており、相場の上昇余地が広がっている。

とりあえず 2009 年 3 月 6 日の大底 6,469 ドルからの 162 週目 (37 ヶ月) に当たる 2012 年 4 月中旬に向けて相場が上昇することが考えられる。場合によっては急騰 13,900 ドル辺りをトライすることも考えられる。

この 13,000 ドル台のハイは大底からの月足カウンター 72 度レジスタンスが位置していることから、一気に上に抜くのは難しく相場はいったん大きく調整する場面がありそうだ。

2007 年 10 月の天井 14,198 ドルからの月足 18 度レジスタンスが 12,500 ドルにあり、昨年 5 月、7 月の 2 度のトライは跳ね返されている。今度は 3 度目なので上に抜けやすくなっているだろう。

目先は 4 月中旬に向けての上昇を取りに行く作戦で行きたい。



○ NASDAQ 総合指数

NASDAQ の月足を 2009 年 3 月 9 日の安値 1,265 を起点に見てみると、美しい 72 度チャネルの中での 72 度線が役目を果たしていることが分かる。

10 月 4 日の安値 2,298 はその 1,265 の安値からの 31 ヶ月目にエンゲージし始める 72 度線に丁度サポートされる形になっている。

その 72 度線は、1 月は 2,500 にあり下値を支えるはずである。このラインは 4 月末 2,620 ぐらいまで上昇し下値を支える形である。上値はもう一段上位の 72 度線がレジスタンスとして機能するはずである。

2009 年 3 月の安値からの 162 週に当たる 4 月中旬で、月足 4 月を見ると、その上位 72 度線の位置は 2,900 辺りに位置している。

この 2,900 は同時に 1,265 からの月足カウンター 72 度線が位置するポイントであり、強力なレジスタンスを形成するはずである。

ということでこの相場は目先 2,900 を目指していく相場ではないかとみる。

タイミング的には 4 月中旬が 2,900 示現の日柄として美しい。



債券相場

10. 日本国債 (JGB) 先物相場

この相場の年足を見ると、1990年の安値87円08銭からの上げ72度チャンネルの61.8%チャンネルの72度線に過去6年サポートされてきた。2011年はそのラインが142円辺りにあり、年末相場142円41銭はかろうじてそのサポートに支えられた形である。2012年はそのラインが145円近くまで上昇してくる。

2003年6月の大天井が145円28銭であるのでそれに迫る形であるが、一方で87円の大底からの上げ72度チャンネルのカウンター36度メジャーラインが142円50銭辺りにあり強力なレジスタンスとして機能する。したがって過去6年サポートされてきた72度線は下に切れる可能性が極めて高い。そうするともう一段下位の72度線サポートである2012年135円辺りまで相場が下落することが考えられる。

この相場の変わり目のタイミングはいつか。

1990年9月の底値87円08銭と2003年6月の天井145円28銭からそれぞれ月足18度線を引いて、交わるポイントは2012年2-4月辺りで、このタイミングから相場がはっきり下げに転じるのではないかとみている。

2010年10月の高値144円31銭からの月足下げ36度チャンネルでみると、2012年3月139円というレベルが強いサポートに見える。

上値を追う可能性は低いと思われるが、1999年2月の安値125円70銭からの月足18度チャンネルの上限が143円にあり上値を阻むことになる。

基本は戻り売りで対処したい。

11. 米国債券 トレジャリーノート先物相場 (TREASURY NOTE FUTURE)

2008年12月18日の高値130.19からの162週目が1月29日となっている。したがってこの1月27日に終わる週辺りから相場に変化が見られる可能性が高い。

この相場を2000年1月の安値93.21から見てみると138ヶ月目(69×2 11年6ヶ月)の節目が昨年7月であった。2ヶ月ほどずれたがそのタイミングに向けてペンタゴンの高さの上限132まで上げて来た相場である。

その後も相場は下げ渋っているが高値は132台と月足上げ36度チャンネルの上限レジスタンスが効果を發揮している。

上記の162週目のタイミングを契機に相場が下落に転じるものとみている。

おそらく米国株の高値追いが4月辺りまでは続くものとみているので、4月辺りまでは相場下落金利上昇の流れとなろう。

2000年1月の安値93.21から見た月足カウンターの72度線は大局的に見て2013年7月に向けて117辺りまで降りてくるので、中期的には、長期金利は4%に近づく場面が出てきそうである。

(以上)